

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ
あかるい家庭を きずきましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる
若い力を のぼしましょう

一中地区市民委員会

亀城

発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部 発行日：平成26年3月15日(土)
 事務局：一中地区公民館内 TEL: 029-821-0104
 世帯数 9,480戸 人口 20,534人(平成26年2月1日現在住民基本台帳による)

宍塚小学校閉校に際して



一中地区市民委員会 委員 中島 修

明治十年と言えば、西郷隆盛がこの二月に西南戦争を薩摩で蜂起し、九月にはその戦争も終結し、最後の士族武装蜂起となった年です。

そんな明治十年の九月に、宍塚村般若寺の境内にて、この宍塚小学校は産声を上げたと伝えられています。この宍塚小学校の沿革を簡単に紹介したいと思います。

明治十年 五カ村連合(宍塚・矢作・飯田・佐野子・粕毛)、宍塚村般若寺を仮用、宍塚小学校を設置二十八坪

明治二十年 下高津小学校の宍塚分校場となる。

四十三年 宍塚尋常高等小学校と改称

大正四年 農業補習学校を開校

昭和十年 青年学級を新設

十六年 宍塚国民学校となる

二十二年 土浦市立宍塚小学校となる

二十七年 宍塚小学校PTA発足

四十年 校歌発表会

四十八年 プール開場式

五十一年 新校舎完成

五十六年 体育館竣工式

平成八年 宍塚小地区防災倉庫設置
校長室にある当時の写真からは、

地域とともに生きる、地域が子供を育てるといふ、百三十六年後の今あるべき学校像といわれる姿が垣間見えるような気がしてなりません。今年、平成二十六年三月をもって、宍塚小学校はその務めを終え、自立・協力・創造という校訓の下、多くの優れた人材を地域に輩出しながら閉校します。

最後の校長として、児童たちのために常に学校の応援団で居続けていただいた地域の方々、保護者の皆様に心から感謝の言葉をお送りし、文を閉じます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。(筆者は宍塚小学校校長です)

生田町内会



一中地区市民委員会 副委員長 齊藤 幸好

一、歴史

一九七二年(昭和四十七年)十一月一日に生田町が誕生致しました。

当初の世帯数一四九世帯、人口六〇一人でした。当町内の初期活動は子ども育成会、生田倶楽部等が中心であり年齢的にも若く活発に活動して参りました。子ども育成会を中心とした、スポーツ少年団による少年野球チーム、女子ドッチボールなど、日曜日を中心に町内有志の皆さんの

ご協力を戴き、野球、ドッチボール共にしない大会にて優勝すると薄刃らしい成績を収めて参りました。また冬はスキー、夏はキャンプファイヤーなど楽しい思い出づくりをして参りました。お祭りについては、生田倶楽部を中心に獅子により八坂神社祭礼に参加し、打合せにも集会場がなく町内の食堂を利用してきました。そのころより集まるたびに集会場が欲しい等の話が出てきました。具体的な公民館建築に向けての取り組みが、町内会員の署名、地縁団体登録等の取り組み等により平成十四年十二月に公民館は完成致しました。

二、公民館祭り

生田町公民館の完成を記念して、毎年二月に公民館祭を実施することになりました。実施体は、町内会、紫峰会、子ども育成会、生田クラブ、青年会などすべての組織が力を合わせて実施しています。全町民に呼びかけ、ビンゴゲーム、輪投げ競争、グランドゴルフ、ダーツ競争、子ども育成会によるバザー、餅つき大会を実施しております。餅つきは子ども達と一緒に餅をつき、きなこや辛子餅にして全員で頂いています。



三、高齢者健康増進活動

高齢者の健康増進を推進するため
にランドゴルフを実施していま
す。主催は紫峰会スポーツ部です。
桜川河川敷を土浦市役所より借用
し、生地や草刈りなどを実施し、グ
ランドゴルフを週三日実施し多数の
皆様が参加し、お話をしたり、体を
動かし健康増進に繋がっています。
近隣の町内会の高齢者団体も一緒
に参加し交流を深めています。
(著者は現在生田町の地区長です)

宍塚小学校



一中地区市民委員会
副委員長 佐野 道夫

四月より宍塚小学校の生徒は土浦
小学校に通学することになった。
宍塚小学校は一三九年前の明治八
年に開校し、その翌年に下高津小
校が開校した。明治十九年に尋常小
学校という呼称となり、明治四十
二年に現在地に移転した。

私が入学した昭和二十四年頃は戦
後間も無い為、衣類や食料など全て
が不足していた。

通学は下駄に足袋・学校での上履
きはわら草履、三年生の頃まで弁当
を持参した。四年生頃になってジャ
ム付コッペパン、脱脂乳(アメリカ
より支給)が配られ、味噌汁もでる
ようになった。給食は大変美味しく

楽しみだった。冬には「だるまストー
ブ」が入り、一日バケツ一杯の石炭
を焼やし暖をとった。

学校の正面を入ると右側に砂場と
鉄棒があり、両側に大きな桜の木が
あった。校舎の玄関近くに石榴の木
と百日紅があり、この二本の木と桜
の木は現在も変わっていない。

学校は大人の背位の生木で囲まれ
入口は南側【正面】と東側、北側の
三ヶ所で東側入口近くに校長先生の
宿舎があり生木で囲まれていた。

校舎は入母屋作りで堂々とした屋
根瓦の建物で玄関を入ると左側が教
職員室、その隣が三年生の教室、右
側は一年生二年生の教室で、西側の
校舎は四年、五年、六年生の教室が
あり廊下でつながっていた。入口は
正面と両側にあり西側の校舎は北側
にあった。トイレは一年二年生の教
室の間より北側に廊下で続いていた
又西側校舎の北側にもあり、全部で
三ヶ所あった。学校の行事は春の遠
足、秋の運動会、学芸会があり、そ
の頃は一クラス三十人余りいたので
全校生徒は二百人近くはいた。

小学校の庭では青年団による盆踊
り大会があり、上手な人には景品が
でて浴衣姿の踊手が二重、三重の輪
となり盛大に行われた。秋には校庭
で丸太を組み、幕を張って映画が無
料で見ることができたが、音やフィ
ールドが見ることができた。音やフィ
ールドが切れ中斷することがあった。

宍塚小学校は教育の場であり、人

と人の触れ合いの場でもあった。又
地域と地域をつなぐ大事な役目を備
えていた。今後も宍塚小学校はその
ような役目をもった施設に変わるこ
とを希望する。



市民委員会 専門部の活動

環境部の活動

部長 船津 寛

本年度の環境部の計画は、既に終
了した。①春の花いっぱい運動、②
花火大会後の清掃③一中地区公民館
まつりがあります。

①春の花いっぱい運動

まちを花できれいに飾ろうという
運動です。毎春、各地公民館や民間
企業も含めて花を飾る運動です。環
境保全課に申し込みをした団体がマ
霞ヶ浦文化体育館前に納品されたマ

リーゴールドやサルビアの苗木を持ち
帰り、自分のプラントナーに飾る取り
組みがあり、広がりを見せておりま
す。

②花火大会後の清掃

花火大会の翌日の朝六時三十分よ
り桜川河川敷と土手の一斉清掃を
行っております。旧市内以外に、虫
掛、佐野子、蓮河原、港一、の環境
部員さんにはゴミ袋を配布し、ご協
力をお願いしております。清掃は環
境部さん以外に地区長さんの呼びか
けもあり、に二〇〇名前後の参加に
より、ごみ一つない河川敷となつて
おります。市の指導もあり年々花火
観客のマナーも良くなりゴミが減少
してきております。

③一中地区公民館まつり

毎年実施している公民館祭りに、
環境部も参加しております。子供た
ちにごみ収集の関心をもって頂くた
め、空き缶、ペットボトルの回収を
しております。持参した本数により、
抽選により景品を差し上げており好
評です。毎年景品が不足する関係上、
ペットボトル、空き缶など、五本で
一回、最高五回の抽選といたしました。
た。

なお、本年二月から三月にかけて、
環境施設見学会を予定しており、環
境保全課と日程、場所等を協議中で
す。決定しましたらお知らせいたし
ますので、その際はご参加頂きたく
お願い致します。

みんなの広場

大手町お不動様の祭り

大手町 三須 由紀子

デロリン、デロリン、デロリンと言いつつおもむろに昨日の続きを語り始める。田宿の華蔵院、通称お不動産様の周辺には大道講釈師の声が響く。演目は、猿飛佐助の忍者もの・久米新八郎の武勇伝・岩見重太郎のひび退治などでその他にも沢山の出し物があった。その講釈師は、山伏の様な格好の男でとても面白く人気があった。錫杖を振って台を叩きながら自分が来たことを告げると、周りの家々や銭湯の中から老若男女を問わず人があちこちから飛び出して来る。そして「祭文語り」が始まる。約40分近くも語り、話が波に乗ったところで今日はここで打ち切り、後は明日のお楽しみと言ひ、男は小さなザルを回す。ただ聞きする人なんて居ない、みな思し召しを入れる。

他にも色々な商人が居て、デデンガデンのよかよか飴屋・手風琴を鳴らしナポレオンの格好の仁丹売り・メッキリコッキリうまい大学あめ屋などが来ていた。

また、お不動様の周辺には子供相手の駄菓子屋さんや田宿通りの饅頭屋さんも数軒ありふつくとして美味しくとても繁盛していた。明治の

終わりごろのほのほとした日常であった。

時代はさかのぼり、1604年江戸時代初期、急ぎの水戸街道が田宿町を開通し、城下町の南の入口である田宿口には南門が構え、中城を経て出口の横町には北門が構え、往來する人々の監視を行った。そして、お城につきものの寺社が田宿口には5か所も建設された。目的は、人心の精神的統一と軍事施設としての利用である。東光寺・東覚寺・華蔵院松林寺・正安寺で最後の2寺は存在しない。県内外から移住した商人が住み繁栄の町となる。店や交通量の増加に伴い旅籠も出来各寺社の縁日やたくさんの店も賑わいをみせた。中でも色川家・国分家・中村家などは土浦商人を代表する大商人となる。しかし、田宿町は1758年の大火災で町の大半を焼失、その後3度の火災に会う。それでも、そのたびに力強く復興したと根性の町である。

明治の終わりごろ、ガス会社が出来て店や軒下を照らすようになってとても町が明るくなり、店の中の品物を一つ一つ影を作り浮かび上がらせた。表通りは明るくなったものの、少しでも裏へ入ると以前と変わらずとても暗かった。月の無夜や冬などしんとして物音一つ聞こえない、そのしじまの中を拍子木の音が響いてきた。その寂しさは想像しが

たいものがある、と記されている。

今、大手町に響く拍子木の音は、心に響く温もりの、心地よい音である。「火の用心」勝ち、価値、かゝち。寒い中いつもありがとう、感謝の気持ちにはあふれるほどあるもの、なかなか言葉に出来ずにいる私である。世の中は格段に便利になり発展した、様々な発明、発見、努力や知恵の結集であろう。変わらぬものは、懸命に生きて死ぬことであるならば、生きている限りご先祖様を大事にしていこうと思っている。

- ・ スケッチで綴るふるさと土浦 佐賀 進
- ・ 土浦町内ものがたり

県立「土浦特別支援学校」を訪問して

田中一丁目 齊藤 岑生

昨年十一月二日、支援学校の「第二十四回太陽祭」の学習発表会と各種の活動とバザーを見学した。学習発表会の野口雨情童謡メドレーや模擬喫茶での接待の模様では普通の児童であった。十一月二十一日の校内参観では中等クラスとわくわくクラスを参観した。中等クラスでは金閣寺についての授業で三人の教師が七人の児童を指導していた。児童は教師の質問に手を挙げて何とか立ち上がって答え、ほぼ正解だと皆に拍手

して貰っていた。わくわくクラスでは三人の教師と一人(四人欠席)の児童が授業を行って居た。一人の教師はかがんで児童の手をもんだりしてリハビリを行って居た。児童は車椅子に座らされて殆ど無表情で目を見開いたままに見えた。しかし教師は普通に児童と接して名前を〇〇さんと呼びながら話し掛けて居た。児童を全く正常児として接していた。

この学校は高等部までしか居られない。その後は数少ない遠隔地の施設に入れるか、自宅に引き取るかであるが、殆どは後者であるという。児童は喜怒哀楽の表現は出来ないであろうが、親は生まれてから手塩にかけて育てて来たのであるから、掛けがえなく愛しいに違いない。しかし、親自身が万一の時の事を考えると心配でたまらないであろう。

私は幸い健康で前向きな気持ちには「特別養護老人ホーム」は有るが、ここの児童達を受け入れる同等な施設は国や地方自治体で出来ないのだからだろうか？ 児童介護保険制度の導入などで、「皆が相応に安心で、幸せに暮らせるような施設が」と思っただ。京都大学の山中教授のiPS細胞作成法の発見のような医療技術の進歩にも期待したい。

同好会だより 水墨画教室 心と和会

代表 大住 洋子

心と和会が出来てもう二十四年ほどたちます。社協センターが出来て、久保田先生の講座、水墨画教室の絵の勉強を通しての仲間達の集りです。先生がお元気な時は、活気のある教室でした。その頃は、水墨画の全国水墨画展に出展する目的がありましたのでそれは活気があり、何人も人が出展（久保田先生の教室は十四ヶ所ぐらいいりましたので）、とても活気がありました。先生が体調をくずされ入院する様になってからは他の教室は解散又は他の先生を呼ぶ様になり、心と和会も、解散するかの話も出ましたが皆の気持は心と和会と云う会の言葉を大切に、これからも絵を書きそれを持ちより研究会の会としてお互いに評価し合い、又アドバイス等し小作品展を目的にして楽しみながら、一ヶ月一回の会を続けて行きたいと云う意見にまともにお互い年を重ねて、楽しく日々をおくって行ければ良いと云う言葉が出て来まして、皆の心が輪になってすきな水墨画を続けて行く事になり現在に至っています。絵を書いてこない人も出席して最後のお茶飲み会を楽しみに来る人、話す言葉がこの時は我れ先に声が大きくくなって、会話がはずみ笑ったりして過す。

私達の会は、今日一日元気で楽しい一日が過ごせた事に感謝して居る年令の友達の集まりですがまだまだ頑張つて勉強して行きたい気持ちを胸に抱いて前向に進んでいます。よろしかったら一度のぞいて見て下さい。歓迎いたします。

一年間の目標

・毎月第四日曜日 午後

・年一回 小作品展 一中公民館

・年二回（春秋）スケッチ（バス、日帰り）勉強が終わったあとは、

皆でお茶飲み会が有ります。楽しい会話を交えて

・昨年のスケッチ

春 西山荘

秋 岡倉天心記念館（岡倉天心百年記念展）

秋 岡倉天心記念館（岡倉天心百年記念展）



西山荘のスケッチ風景

同好会だより おもしろい料理

代表 岡部 恒文

成り立ちは、公民館講座の「すてきなおもてなし料理」が終了した二十三年八月に受講生から引続き料理の学習を続けたいとの声があり、二十三年九月より同好会として発足した。

主な活動内容は、料理メニューはヘルシーとエコロジックキングを目標に、料理を通して生活習慣病の予防をする。料理の実習を通して、料理の仕方、料理の技術アップを図るなど。

料理実習のやり方は、一中地区公民館の調理実習室で、会員八名を二班に分け先生作成の三・四種類あるレシピの内容から順を追って説明がはじまる。会員は配られたレシピを見ながら熱心に先生の説明を聞く。分けないところは、その都度、質問もOKです。それから時間のかかる料理は先にやる取りかかる順序の説明があります。

今年一月のメニューは、一、中華まん 二、中華まんの具 三、サラダ 四、クラムチャウダー（シチュー）

誌面の都合もありますので、二番目の「中華まんの具」の作り方を説明致します。

材料（8個分） 豚ひき肉一五〇g、白菜又はキャベツ一五〇g、干しいたけ四g（二個）、長ネギ三〇g（約三分一本）、しょうが、酒大さじ一、片栗粉大さじ一、ごま油・砂糖小さじ一、塩小さじ二分の一
手順

①白菜は、さつと茹で、みじん切り後布巾に包み水分をしっかり切る。

②他の食材もみじん切りにする。

③挽肉に調味料を入れ混ぜる。男子は私一人の紅一点でなく白一点、女性群のように手際良くサツサとは切れない、みじん切りもマイペース。

挽肉に調味料を混ぜる作業も私の仕事。先生より良く混ぜ合わせるよう声が飛ぶ。手をよく洗い、素手で挽肉を調味料そして①②を加え良く混ぜ合わせ、皆んなで一ヶ約四〇グラムに丸める。具には他に季節の野菜などを使用するのもよい。これで「中華まん」入れる具は出来あがり。

④中華まんの皮に「具」を入れる作業（皮をつくる作業は省略）

丸めた成型は、直径九センチ位に伸ばし、中央に「具」を置き、ひだを取りながら包み込む。

⑤具に火が通っているものは十分くらい、生の場合は十五分位蒸す。

⑥蒸しあがったら、手早く取り出してうちわ等で扇いで艶を出す。これで「中華まん」は出来上がり。

持ち帰って妻や長男に食べて貰ったら「おいしかった」の評価を得ました。



を作りましたが、延二時間ちよつとで全部出来上がりました。

料理が出来上がったからお楽しみみの食事の時間です。食事をしながら、先生より「今日はどうだったか」との声、会員は口を揃えて「味がいい」「おいしい」との声、食事をしながら料理のこととか、世間話に花が咲く、至福の一ときとなっています。食事のときには、皆さんで持ち寄った米を炊いて御飯も出ます。

例会は、毎月第二金曜日午前中にやっています。講師は西岡栄子先生（かすみがうら市在住）です。現在の会員数は七名です。体験実習も受付しますので興味のある方は是非ご参加下さい。

同好会だより
詩吟の会 **DJあむむむ**
 代表 黒澤百合子

一、名称 こまくさ会

代表 黒澤百合子

(一般社団法人 霞朗詠会)

した。

文章にする

と長くなりま

すが、実際の

料理時間は、

この日は、そ

の他に「サラ

ダ」「クラム

チャウダー

(シチュー)

二、総本部 水戸東野町

三、練習日 第一、第三、第四木曜

時間 十三時三十分、

十五時三十分

四、指導者 総本部指導者

五、内容「和漢朗詠集」より

「NHK教本」和歌・俳句など...

六、必要経費 若干

現在、こまくさ会会員は十名、ど

なたにもやさしく吟じられます。

是非見学いらして下さい。

詩吟というと、あまり馴染みがな

く敬遠されがちですが、習ってみま

すと、おわかり頂けると思いますが

利点が結構あります。常々、腹筋を

使いお腹から声を出すようにと、指

導されますので、健康にとつても良

いですし、吟ずる詩を熟読と、覚え

ていく事で、脳の活性化にもつなが

りますので、一石二鳥だと思えます。

詩の中には、学生時代に学習され

た事を思い出さずにはいられない、

なつかしい中国の漢詩も数多く出て

きます。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

繋げていつ

みませんか。

先人達の

残してくれ

ました、す

ばらしい漢

詩、和歌、

俳句等、ご

一緒に詠い

短歌

しんしんと闇に雪ふる遠き日に反故となりたる約束おもう

生田町 金丸 玉貴

「ふるさと」はみんなの心にある歌やコンサート会場の客もうたびと

中央一丁目 櫻井 雅江

休日の日をかけてふつくらと花豆煮れば一人に余る

大和町 瀬古沢和子

音も無きひかりのなかの春の雨優しきものにわれも濡れゆく

東崎町 荒木富美子

吾の傍にミミズついでむ雄の百舌羽根ふつくらと恐れ気も無く

田中一丁目 井上 寛江

桜町二丁目さくら俳句会 新年初句会作品集抄

鏡餅年来る毎に小さくし

荒木小夜子

初筑波スマホ行き交う登山道

糸賀 孝雄

もてなしは炭火の火鉢熱きお茶

田口よし子

山茶花の紅を見事に塀の中

根本きた子

初稽古齡を見せず舞にけり

深谷 由子

初詣十指に余る願いごと

矢野惣四郎

梅一輪香りほのかな躍り口

矢野 澄枝

かけ蕎麦のうつわで割りし寒卵

若松 明子

初筑波爪切りそろえ合掌す

藤川 祐子

公民館まつり

第二十回一中地区公民館まつりが「出会い、ふれあい、学びあい」をテーマに芸能大会、同好会による催し、子供達の作品の展示また市民委員会専門部の出し物等大変盛大に開催されました。これも公民館まつり実行委員会ははじめボランティアの方々による運営、そして多くの方々の参加によるものと感謝いたしております。

来年度の事業についても、各種講座、公民館事業のなお一層充実した内容で、皆様と共に事業の推進に努めて参ります。よろしくお願いいたします。



編集後記

先月は厳寒と近年にない記録的な大雪にみまわれました。皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。

さて、「亀城」二十六号をお届けいたします。

役員の方、小学校長さんをはじめ同好会専門部会の活動状況等ご寄稿頂き、編集委員一同より感謝申し上げます。

(今回の編集に携わった方々)

- 大槻 正義 岡部 恒文
- 桜井 昌子 柴沼美津子
- 犬山 京子 安達 久恵

